

『あなたがたは神の作品』 エペソ人への手紙2章1～10 2015.11.8(主日礼拝説教より)

『私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。』
エペソ 2:10

パウロはエペソ 2:10 で、神からいただく「救い」について、「私たちは神の作品である(10 節)」と説明している。◆神の作品とは、「神のイメージ通り、唯一特別な作品」の意味である。神の御手により創られた私たち一人一人には、神の「著作権」があり、世界で唯ひとりという希少価値、誰とも比べられる必要のない特別な個性が与えられている。「No.1 にならなくていい。元々、特別なオンリーワン♪」。誰もが、自分を特別で大切な存在として認めて欲しいと願うもの。障害すら大切な個性なのである！一人一人が特別な「神の作品」と理解するとき、互いにその違いを認め、健全に、愛をもって向き合う信仰の目(心の目)が開かれ、互いに理解し合える、成熟した大人の間人間関係を築きたいものである。

◆私たちは、神による個別的で特別な価値を持つだけでなく、「あわれみ豊か(4 節)」に、「豊かな恵みと慈愛(7 節)」によって創られた「神の愛の対象」である。星野富弘さんは、自分の詩画集を出すたびに娘を嫁に出す気持ちになるという。二度と同じ作品は出来ないという半端ない「作品愛」、細部にこだわる気持ちと、ひとつひとつの作品に、並々ならぬ思い入れがある。神は私たちを、その愛情を注ぎ込む「器」として作られた。あなたは、創り主を信じ、その恵みと憐れみを内に受け止め、神の愛が生活に溢れているだろうか？

◆最後に、神の作品には目的がある。「良い行いをするために創られ…その良い行いはあらかじめ備えてられている(10 節)」。私たちは、神に喜ばれるために生き、そのために必要なすべての力をすでにいただいて(備えられている。笑顔や優しさを、赦しや忍耐には、特別な努力や訓練や教育は必要なく、すでに神により与えられている！憐れみ(当然受けるべきのろいや裁きを免除されること)と恵み(全くいただく資格がない良きものを受取ること)を、キリストを通していただいた私たちは、それを与える者として召されている！